



選ぶ理由は、ここにある

写真/鶴田智昭 (WPP)
文/モノ・マガジン編集部

ツインシステムユニット

ストリームウーハー

「2+1」の新境地

長年ヘッドホンの世界で君臨するJVC(ビクター)。その歴史に、新たな1ページが刻まれようとしている。業界初の「ストリームウーハー」を搭載し、リアルな重低音を再現、そして独自の「ツインシステムユニット」が解像度の高い中高音を実現。この両立は、まさに革新と言うに相応しい。

JVC(ビクター) インナーイヤーヘッドホン HA-FXZ200

業界初の「ストリームウーハー」を搭載し、独自の中高音用ユニット「ツインシステムユニット」と組み合わせた「ライブビートシステム」を実現。これまでダイナミック方式のヘッドホンでは困難だった、リアルな重低音と解像度の高い中高音の両立を実現した革新的ヘッドホンだ。オープン価格。



同シリーズの HA-FXZ100

ストリームウーハー外部のリングがシルバーのモデルはHA-FXZ100。HA-FXZ200との違いはストリームウーハー内部に使用されているユニットベースがアルミ素材、ケーブル線の素材がOFC線という点になる。他はFXZ200と同様のシステムとなっている。オープン価格。

ヘッドホンで重低音と中高音は両立するの

革新的なヘッドホンに世に送り続けているJVC(ビクター)。世界初となるトップマウントユニット構造、そしてウッドドームユニットの開発など、その歴史を紐解くと、ヘッドホンにおいて「革新」という名にふさわしい機種が登場している。このヘッドホンも、また革新だ。目指したサウンドは、「リアルな重低音」と「解像度の高い中高音」の両立だ。言葉にすると簡単だが、この両立には多大なる試練が待ち受けていた。まず、インナーイヤータイプであるがゆえの小さな筐体での重低音再生の困難、そして1ユニットだけで重低音を強調すると、中高音域へ悪影響を及ぼしてしまつたという難題だ。

それを克服した技術の結晶が、業界初となる「ストリームウーハー」である。この超小型スピーカーは、再生に効果のあるケルトン方式を応用したものだ。この方式を応用するだけでなく、効果的に重低音を引き出し、さらに中高音域に悪影響を及ぼさないために太さと長さを換え、何度も試作を重ねられたのが「ストリームダクト」である。そこにJVC(ビクター)が誇る、伸びやかな中高音を実現したツインシステムユニットを組み合わせることで、リアルな重低音と解像度の高い中高音が両立したのだ。ツイン(2)システムユニットに、ストリームウーハー(1)をプラスしたことで生まれる音。この「2+1」が、アナタの抱くヘッドホン像を超える、新境地をもたらすことは間違いない。

選ぶ理由、4つのポイント

II 「+1」のストリームウーハー。

ケルトン方式を応用したストリームウーハー。最適内径(0.4mm)と長さ(30mm)に仕上げられたストリームダクト、カーボン振動板を採用した直径8.8mmのウーハーユニット、FXZ200では真鍮製の「プラススペースユニット」を採用。このプラススペースユニットが、ウーハーユニットの不要な振動を抑え、高品位でキレのある重低音を実現している。



選ぶ理由、4つのポイント

IV ワンランク上の音質を提供するユニットベース&伝送ロスを低減し、音の解像感を高める「銀コートOFC線」を採用 (FXZ200のみ)

音の信号はケーブルを伝わる時にどうしてもロスが生じてしまう。そこでFXZ200では、コードの芯線を純銀でコーティングした「銀コートOFC線」を採用。伝送ロスを最小限に抑え、全体域で解像度の高い音を実現している (FXZ100はOFC線を採用)。



マイク商品・オーディオチーム 重原有幸さん

- Q このモデルは業界初のストリームウーハーを搭載したモデルなのですが、聴いてみていかがですか?
A いや、正直ビックリしました。インナーイヤータイプのヘッドホンでこんな重低音が楽しめるんですね。私が聴くのはもっぱらバンクロックなのですが、そのギターや、そしてドラムの音がこんなにも迫力あるサウンドで聴けるとは思っていませんでした。これだけ低域がしっかり出るインナーイヤーはあまりないと思います。
- Q ツインシステムユニットが解像度の高い中高音を実現しているのですが、そのあたりは感じますか?
A 私が良く聴くようなバンクロックだとどうしても重低音に関心が行きがちなのですが、ボーカルなどの中高音もしっかり出ていますね。これはダイナミック型ですね。ダイナミック3つだけでこの音を実現できているのはスゴイ! のひと言です。迫力ある低音と解像度の高い中高音は、充分に楽しめると思います。
- Q 最近ヘッドホンも高級なタイプが数多く登場し、人気を博しています。このFXZ200はいかがでしょう?
A 当店でも高級ヘッドホンの人気が高まっています。平均で1万5000円ぐらいの価格帯が良く売れます。海外ブランドなど、高い価格のヘッドホンを探せばそれこそ天井がないのですが、このFXZ200は、コストパフォーマンスが非常に高いヘッドホンですね。この価格でこの音は絶対に満足できると思います。

選ぶ理由、4つのポイント

I リアルな重低音+解像度の高い中高音。難度の高い2つの音域の両立を実現。それが新構造の“ライブビートシステム”

幾度とない試行錯誤の上生まれた「ストリームウーハー」。重低音のみを再生し、中高音域には悪影響を及ぼさないという画期的構造だ。これに専用チューニングが施された「ツインシステムユニット」を組み合わせることで、困難と言われていたリアルな重低音と解像度の高い中高音の両立を実現。澄んでいる、かつ深みがある。これが聴いてみた印象だ。



選ぶ理由、4つのポイント

III カーボンの威力を引き出す専用チューニングの「2」ツインシステムユニット



HA-FXT90で初採用された「ツインシステムユニット」。FXZシリーズにも搭載されているが、中高音域の解像度をさらに高めるために、カーボンナノチューブ振動板の薄膜化、ネオジウムマグネットの磁力強化、メタルユニットベースに真鍮を採用し周囲が振動することを防ぐなど、伸びやかな中高音を実現するため徹底的に調整された。

編集部が見つけたッ!

[ポイント+α] メカっぽさを楽しめるスケルトンフォルム

さすがにストリームウーハーの内部を垣間見ることはできないが、スケルトンフォルムの下に見えるツインシステムユニットは、男性誌氏の「メカ魂」に火をつけてくれるだろう。「こっちがカーボンナノチューブ振動板、下がカーボン振動板でさ」なんて、その音の良さにびっくりした友人に語ってあげたいぐらい、なのである。



JVC関係者曰く「ツインシステムユニットの存在を意識してもらうためにあえてスケルトンにした」。その心意気、立派!